



昭和38年夏祭 大神輿の渡御



茨木神社社報
発行所
茨木神社社務所
茨木市元町4-3
072(622)2346
<https://www.ibarakijinja.or.jp/>

永く続いた新型コロナウイルス感染症も五月上旬に感染症法上の第二類から第五類扱いに変更され、社会状況もコロナ禍以前に戻りつつあるようです。

当神社におきましてもこの三年間、諸祭事において神事のみ、または参列者数の制限など制約の中で斎行してまいりました。

六月末の「茅の輪神事」「夏越の祓」より、当神社の諸祭を四年ぶりにコロナ禍前に復して斎行してまいります。続く七月十二日から十五日までの「夏祭神輿渡御神事」も、コロナ禍前の形態にて斎行されます。

「茅の輪神事」と「夏祭神輿渡御神事」は江戸時代から続く神事で、昭和九年に大阪府が刊行した『特殊神事一覧』にも詳細が掲載されている伝統行事です。

「茅の輪神事」は暑い夏の災厄からの個々の守護を願い、「神輿渡御」は大神様への感謝と地域の安寧を願う神事です。いずれも江戸時代中期には斎行されており、文化と伝統の祭であるとともに、過去と現在とをつなぎ先人達と私達の心をつなぐ祭なのです。

私達は、四年ぶりとなるこの貴重な伝統行事を斎行するにあたり、いつまでも後世に残すため、想いを新たにする次第です。

「島下郡の祇園祭」

**御本殿創建四百年記念
「令和の大造営」について**

ご報告



◇奉賛者芳名簿を御神前へ奉安

今回の造営事業に篤志をお寄せいただきました方々に、申込時に直筆でお書きいただきました申込書を綴った芳名簿を、奉告祭を斎行し御神前に奉安いたしました。



その後、屋根に銅板葺を葺くなど工事を再開し、無事完成した後、二月十九日に清祓を斎行いたしました。

令和五年正月には銅板葺を除いて完成していたため、初詣期間中の一時期参拝の皆様にお使いいたしました。

参拝者の皆様に、参拝前にお清めの水を受けていただく手水舎を、新本殿前に建設いたしました。この手水舎では、龍頭及び水を受けたための石は、旧手水舎で使用していたものを受け継ぎ、建物は新築いたしました。

◇手水舎竣工

◇奉賛者石玉垣設置

◇奉賛者芳名板設置



今回の造営事業にご奉賛いただいた方々のお名前を町名ごとに記した芳名板を、本殿向かって左側の手水舎横に設置いたしました。皆様からの篤いご崇敬を記録するものであり、またご神縁を結ばれた証でもあります。



ご奉賛への御礼

芳名板の設置をもつて、御本殿創建四百年記念事業も滞りなく予定通り完遂することが出来ました。これも偏に皆様方の貴いご奉賛・ご協力の賜物と心より篤く御礼申し上げます。



宝暦10年(1760)奉納の御鏡

夏祭 —神輿渡御神事—

◇大神輿の御鏡

当神社の夏祭がいつ始められたかを示す明確な史料は発見されていません。しかし、遅くとも江戸時代中期には夏祭が斎行されていましたと思われます。

それは、まず現在も渡御で用いられている大神輿に、材木町(現在の本町周辺)を願主として、宝暦十一年(一七六〇)五月に奉納された鏡が飾られています。この鏡を制作した人物は、「河上山城掾藤原宗次」という御鏡師であり、詳細は不明ですが、京都を中心に行き渡り、京都を活躍した御鏡師ではないかと言われています。このような立派な大神輿は、祭の始まりに制作・購入されるので

はなく、毎年に祭が継続される過程で備わっていくもので、宝暦十一年以前から祭(渡御)は斎行されていましたと思われます。

また、この鏡が奉納された五年前の宝暦五年(一七五五)には、現在在東鳥居横にある大燈籠が神社に奉納されています。大燈籠が神社に奉納された理由は詳らかではありませんが、江戸時代中期にあった

前年の宝暦五年(一七五五)には、現在在東鳥居横にある大燈籠が神社に奉納されています。大燈籠が神社に奉納された理由は詳らかではありませんが、江戸時代中期にあった人々の氏神さまへの篤い信仰が特に表面化した時期だったことが分かります。

◇町会によつて受け継がれる祭

夏祭は、江戸時代より各町会によって運営されてきました。享和三年(一八〇三)の古文書は、その年の各町が担う役割が細かく記載されており、例えば西外之町(現在の宮元町周辺)では太鼓を叩く「太鼓打」が五人、太鼓が乗っている台車を動かす「太鼓かき」が十五人奉仕することが記されています。

また文政六年(一八二三)の記録では、当時各町会が祭り当日の夕刻、各町会の「お迎え提灯」を神社に持ち寄り、献灯していましたことが

分かれます。

このように夏祭の神輿・太鼓の渡御は、江戸時代から各町会の人達の力によって支えられ、受け継がれてきました。

前年の宝暦五年(一七五五)には、現在在東鳥居横にある大燈籠が神社に奉納されています。大燈籠が神社に奉納された理由は詳らかではありませんが、江戸時代中期にあった人々の氏神さまへの篤い信仰が特に表面化した時期だったことが分かります。

「七度(ななたび)」とは、古来より七回同じことを繰り返すことによって念願が叶えられ、祝福された状態になると言られています。また「半(はん)」とは、中途・終わらないという意味を表します。即ち大神様は御本殿に戻りますが、大神様への気持ちの表れである渡御はいつまでも続いていることを表す習わしです。

「七度半」には、このような願いが込められています。



昭和38年の子供神輿



昭和12年の太鼓宮入



◇石門会（夏祭保存会）いわとかい

昭和二十四年、戦争のため一時中断されていた夏祭渡御を復活すべく、氏子有志が中心となつて「神友会」が結成され、みごと夏祭渡御が復興されました。

昭和四十五年、千里丘陵で開かれた万国博覧会での「日本の祭」に当神社から枕太鼓・子供神輿の参加を契機に、「神友会」を発展的に「石門会」と改名し今日に至っています。

夏祭渡御では、中核としてその諸準備全般・備品管理はもとより、渡御の安全管理など進行の要として携わります。また毎年、大晦日の越年祭参列とその後に行われる参拝者への祝餅授与のご奉仕、十日戎への参加・協力、さらに毎月一日早朝の正式参拝や神社諸行事へのご奉仕をいただいております。

現在、会員数は六十一名で例にもれず年齢が高くなり、若い方の入会が望まれています。詳しくは神社社務所にお尋ね下さい。

春の花手水

氏子の篤いご奉仕によりまして、春の花手水をご奉納いただきました。茨木商工會議所・茨木市商業団体連合会主催の「ガングルフェスタ」開催の時期とも重なり、多くの方々に春の彩り豊かな花々をお楽しみいただきました。



これからの行事予定

◆大祓神事

六月三十日 午後二時斎行

人形祓・茅の輪ぐぐり
厄除神楽

茅の輪守授与

◆夏祭

七月十三日・宵宮
十四日・本宮

午前十時斎行
神輿渡御・神樂奉納

◆末社琴平神社例祭

九月十日

◆例大祭（秋祭）

十月十日 午前十時斎行

◆七五三詣

十一月中随時

祈祷者にお守り
おみやげ授与

◆末社恵美須神社例祭

十一月二十日

◆天石門別神社記念祭

十一月二十二日

◆新嘗祭

十一月二十三日

◆大祓・除夜祭

十二月三十一日

「茨木神社公式YouTubeチャンネル」を開設しました。

この度、茨木神社の祭礼や四季の様子を皆様により分かりやすくお伝えするため、「茨木神社公式YouTubeチャンネル」を開設いたしました。まずは令和元年に斎行された夏祭における、神輿・太鼓渡御の様子を簡潔にまとめた動画を掲載しています。QRコードからどうぞご覧下さい。



<https://www.youtube.com/@ibaraki-jinjaofficial4650>